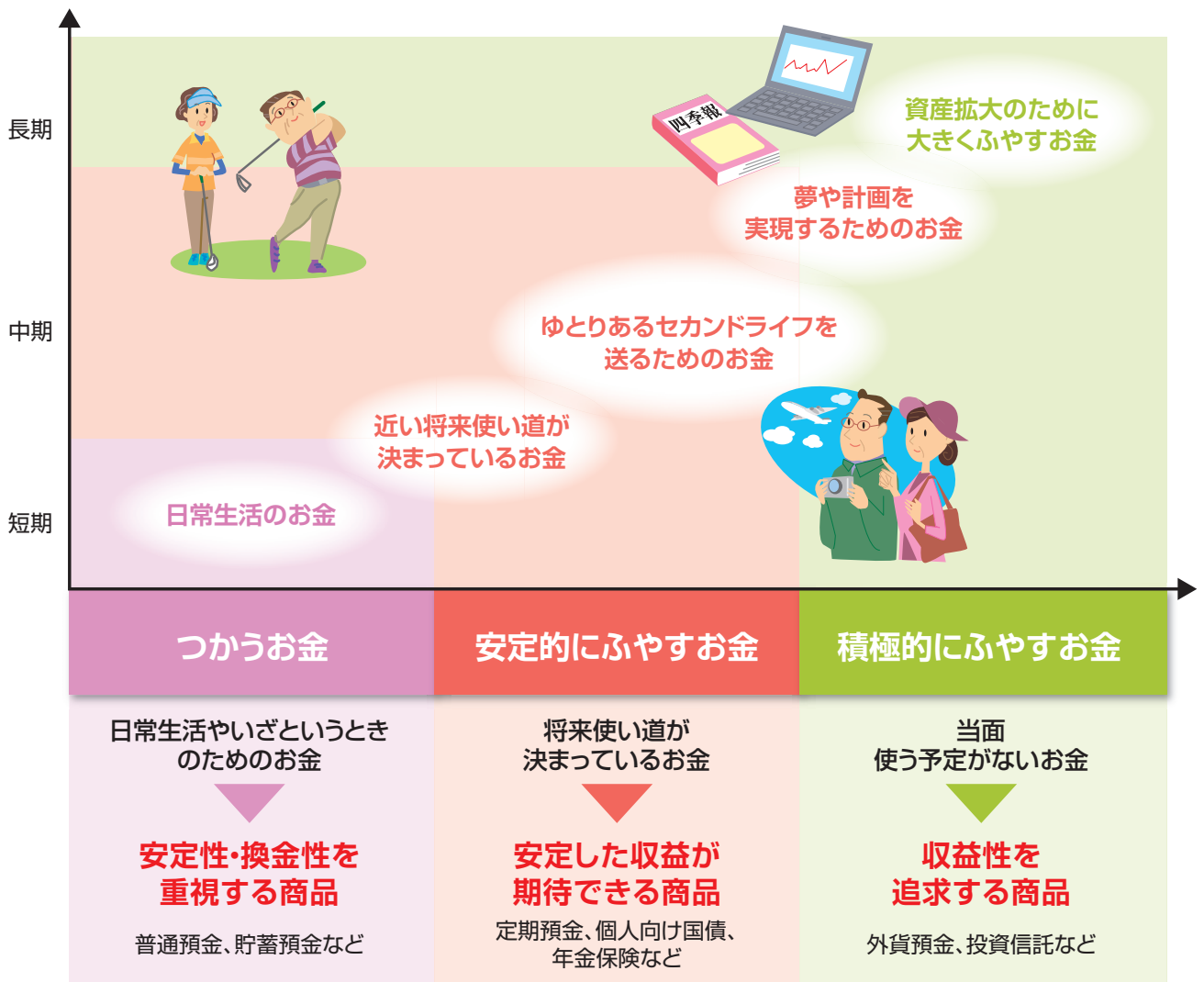


● 資産運用を考えるには、ご自身の資産を整理することが大切です。

お金の使い道を決めて資産を配分しましょう。

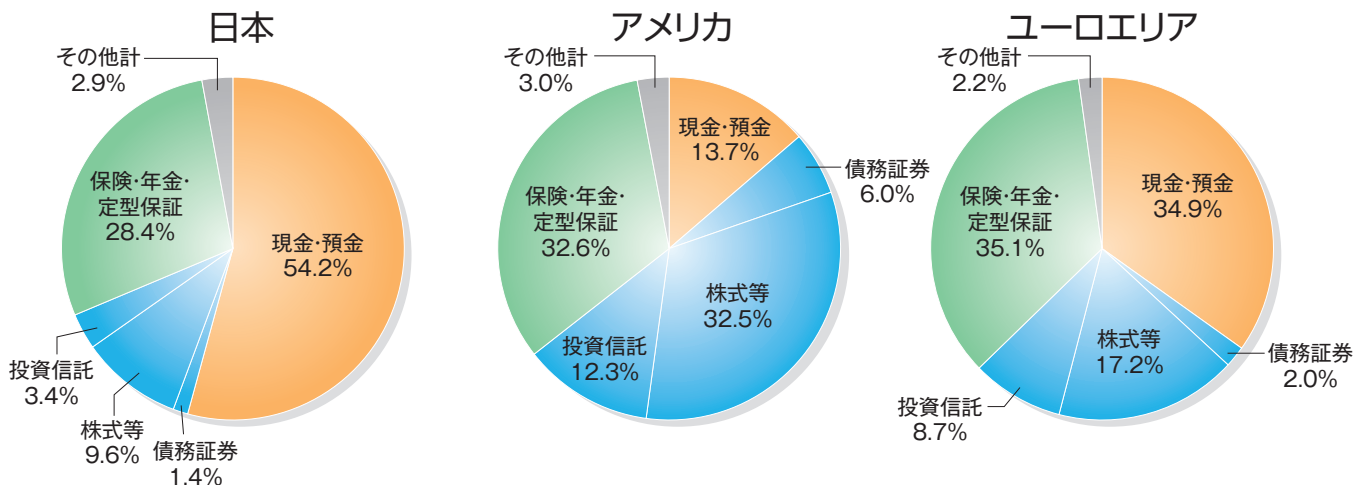


上記はイメージ図です。また、資産運用の一例であり、全てを網羅しているものではありません。
 (作成)野村アセットマネジメント

日本人の個人金融資産は預貯金に偏在しています。

たとえばアメリカやユーロエリアと比較してみると、日本の個人金融資産が預貯金に偏在していることがわかります。

主要国・地域の個人金融資産の構成比較



2020年3月末現在

四捨五入により、各内訳の合計が100%とならない場合があります。

(出所) 日本銀行「資金循環統計」、FRB「Financial Accounts of the United States」、ECB「Euro Area Accounts」

※日本銀行「資金循環の日米欧比較」P5ご参照

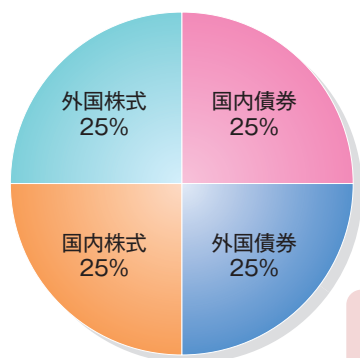
上記を基に野村アセットマネジメント作成

ひとつの金融資産に偏ることなく、バランスよく運用することが大切です。

長期で資産運用する年金の世界においては、日本の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)などで、「分散投資」の考え方が定着しています。

GPIFの基本ポートフォリオ

2020年4月1日適用



GPIFの運用資産
(2020年9月末)
約167.5兆円

(出所) 年金積立金管理運用独立行政法人資料を基に野村アセットマネジメント作成

年金積立金管理運用独立行政法人とは?

年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)とは、厚生労働大臣から寄託された年金積立金の管理及び運用を行うとともに、その収益を国庫に納付することにより、厚生年金保険事業及び国民年金事業の運営の安定に資することを目的としている組織です。

GPIFが投資原則を策定

GPIFは2015年3月に投資原則を定め、資産運用の方針を示しました。

【投資原則(一部抜粋)】

- 年金財政上必要な利回りを最低限のリスクで確保することを目標とする。
- 資産、地域、時間等を分散して投資することを基本とし、より安定的に、より効率的に収益を獲得する。

健康もお金も
バランスが大事なんだね。

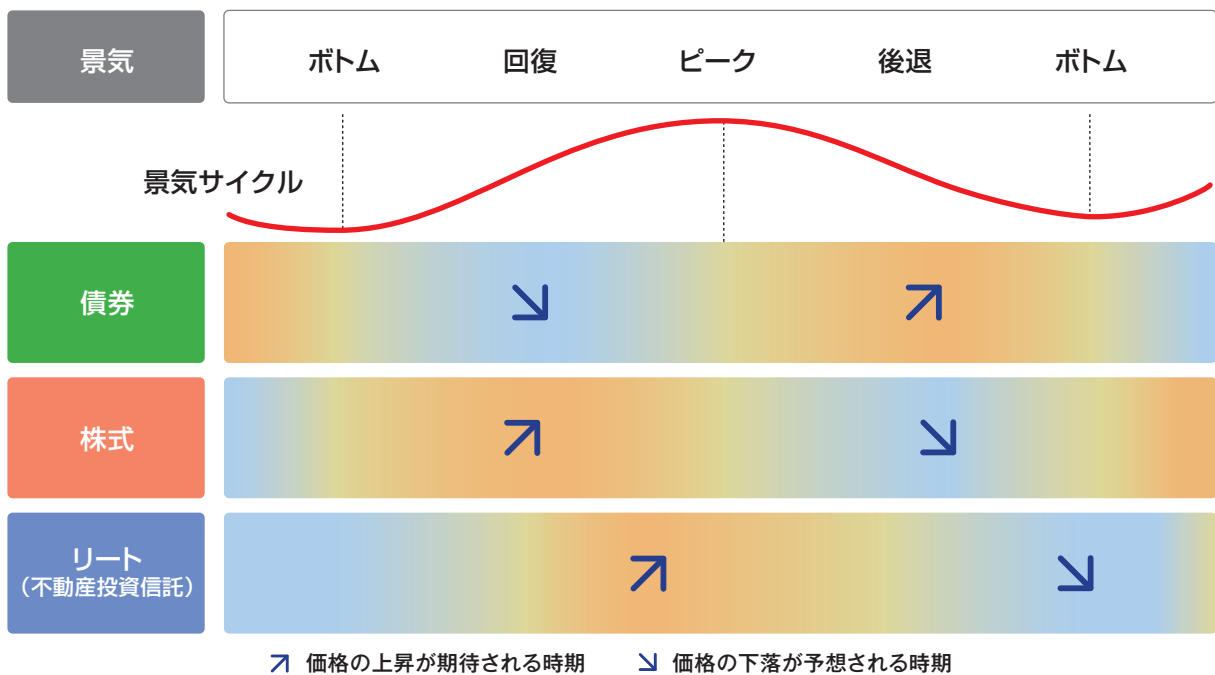




● 代表的な金融資産の特性をとらえましょう。

景気局面ごとの資産の値動きの違いに注目しましょう。一般的に、景気が悪くなる局面では、債券のパフォーマンスが良好となる傾向があり、景気がよくなる局面では、株式やリート(不動産投資信託)のパフォーマンスが良好となる傾向があります。

景気サイクルと各資産のリターン特性(イメージ図)



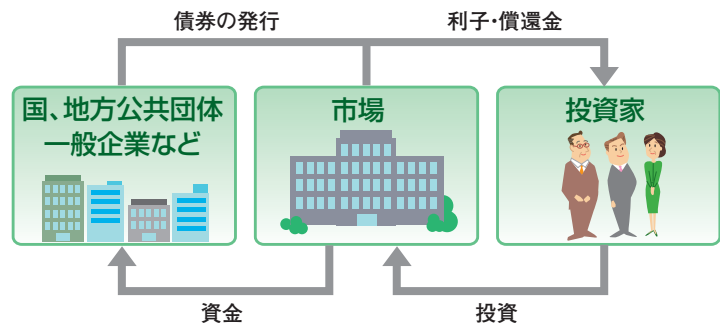
上記は、一般的な景気サイクルとそれに伴う代表的な経済等の動向の例をイメージとして示したものであり、野村アセットマネジメントが作成したものです。実際とは異なる場合があります。あくまでも景気サイクルの考え方の一例であり、景気サイクルについては複数の考え方が存在します。将来の市場等の値動きや投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
(作成)野村アセットマネジメント

各資産によって、それぞれ特性が異なります。

金融商品は資産により特性が異なりますので、資産運用を始める前にそれぞれの特性を理解しておきましょう。

債券

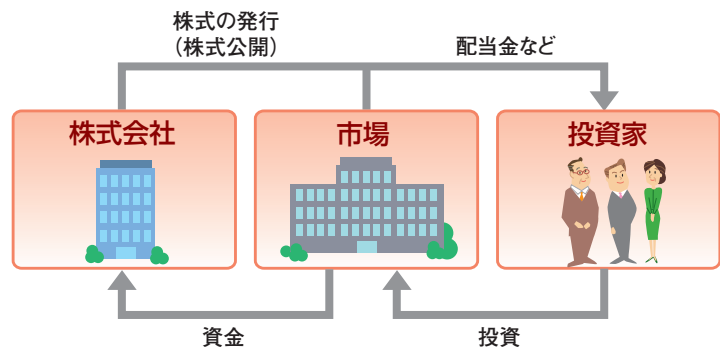
- 国や一般企業などが投資家から資金を調達するために発行されます。
- 債券に投資すると、一般的には定期的に利子収入を受取ることができます。
- 原則として、償還日には償還金が返ってくるため、投資資産の安定性が期待できます。



上記はイメージ図であり、全てを説明しているものではありません。

株式

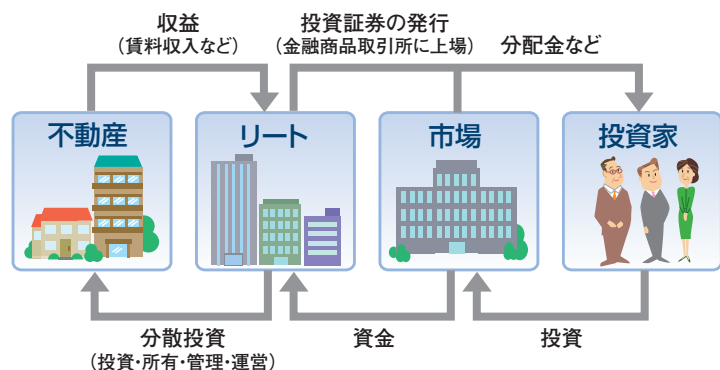
- 一般企業が投資家から資金を調達するために発行されます。
- 株式に投資すると、一般的に企業の業績や景気などが良かった場合、配当金や株価の値上がり益も期待できるため、投資資産の成長性が期待できます。



上記はイメージ図であり、全てを説明しているものではありません。

リート(不動産投資信託)

- 投資家から集めた資金を主に不動産で運用する投資信託です。
- リートに投資すると、賃料収入などに基づく配当金や、一般的に経済の状況が良かった場合に、組み入れている不動産の資産価値や賃料収入の上昇などによってリート価格の値上がり益も期待できるため、投資資産の成長性が期待できます。

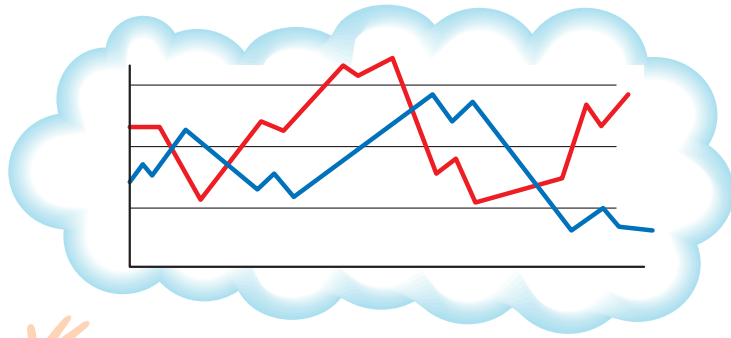


上記はイメージ図であり、全てを説明しているものではありません。

債券・株式・リートにおける売買損益はお客様に帰属します。
将来の市場等の値動きや投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

債券、株式、リート、それぞれで
特性が異なるのね。



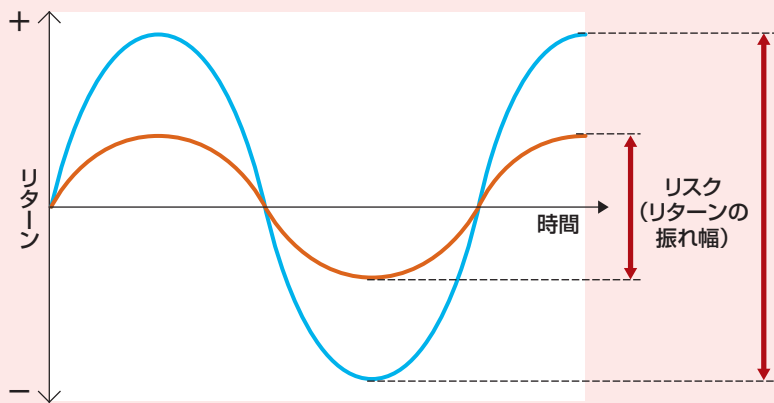
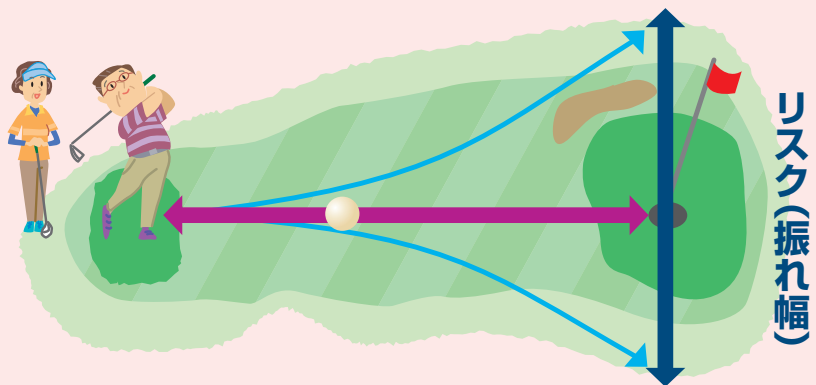


資産運用には
リスクがあるんでしょ。

リスクを「損すること」だと思いませんか。

「リスク」とは、「危険=損をする」という意味ではありません。元々の語源はイタリア語の「勇気を持って試みる」という大変前向きな言葉で、投資理論では、リターン(投資収益)の振れ幅のことを言います。

例えばゴルフでは、目標のホールまでの距離が長くなるほど、遠くに打ったボールの着地点は目標から振れやすくなります。この目標からの振れ幅がリスクです。



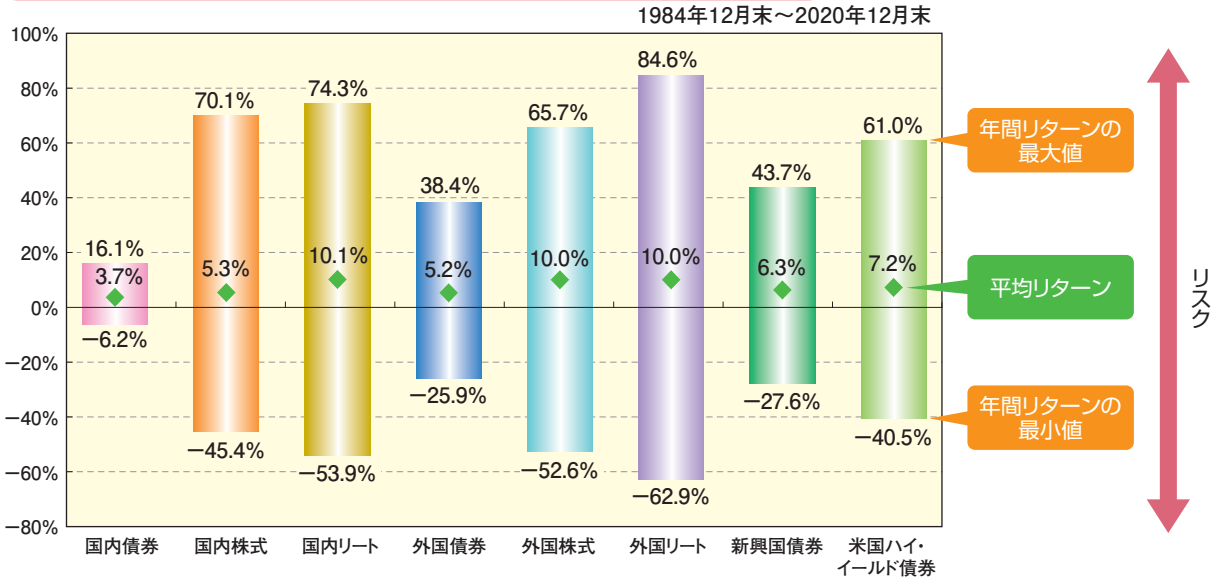
投資でいうと、投資結果のリターンの振れ幅をリスクといいます。

上記はイメージ図であり、実際の値動き等を示すものではありません。

リターンが高い資産は、リスクが大きくなる傾向があります。

各資産の年間リターンの振れ幅は、資産ごとに異なります。**一般にリターンが低い資産ほどリスク(リターンの振れ幅)が小さく、リターンが高い資産ほどリスクが大きい**ことがわかります。

各資産を1年間保有した場合の年間リターンの振れ幅



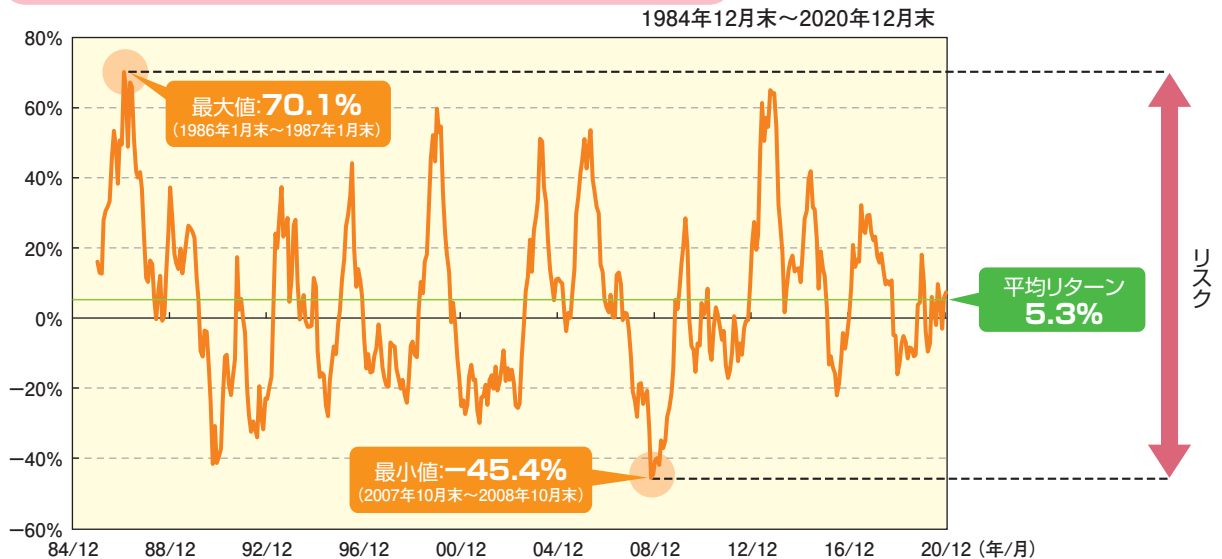
国内リートは、2003年3月末～2020年12月末、外国リートは、1989年7月末～2020年12月末、新興国債券は、2002年12月末～2020年12月末、米国ハイ・イールド債券は、1996年12月末～2020年12月末の期間です。例えば、2020年12月末の年間リターンは、2020年12月末までに1年間保有した場合の年間リターンを示しています。各資産の算出に用いた市場指数については、裏表紙をご参照下さい。

税金・手数料などは考慮していません。グラフは過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

(出所)ブルームバーグ等のデータを基に野村アセットマネジメント作成

例えば、国内株式の年間リターンは、年によって変動が大きく、最大値と最小値は平均リターンから大きく離れていたことがわかります。

国内株式を1年間保有した場合の年間リターン



例えば、2020年12月末の年間リターンは、2020年12月末までに1年間保有した場合の年間リターンを示しています。

税金・手数料などは考慮していません。グラフは過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

(出所)ブルームバーグ等のデータを基に野村アセットマネジメント作成

高いリターンを狙うと
リスクが大きくなるのかあ…

